



発行
小児科外来
看護師 高松薫

発行 平成21年5月20日

第二種の伝染病

インフルエンザ

潜伏期間…1～2日

感染経路…患者の鼻腔、咽頭、気道粘膜の分泌物からの飛沫感染です(ウイルスで汚染されている手指から感染することもあります)。

登園基準…解熱した後、2日経過するまで出席停止です。病状により、伝染の恐れがないと認められれば登園できます。

主な症状

インフルエンザウイルスにはA型・B型・C型の3つがあり、その年によってA香港型、Aソ連型、B型のどれかが流行することが多くなっています。症状は、突然の高熱や強い頭痛、全身倦怠感、筋肉や関節の痛み、食欲不振です。咽頭痛、せき、くしゃみ、鼻水、おう吐、下痢、腹痛などもあります。

2～3日で熱は下がっても、全身症状は1週間くらい続き、元に戻るのに10日～2週間かかります。重い合併症もあるので注意が必要です(肺炎、中耳炎、心筋炎、脳炎)。



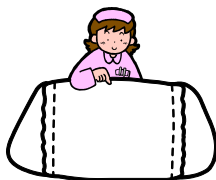
新型インフルエンザは誰も免疫を持っていないため、通常のインフルエンザに比べると、感染しやすく、多くの人がインフルエンザになることが考えられます。

厚生労働省：新型インフルエンザ対策関連情報より

新型インフルエンザにかかったかな？と思ったら・・・

疑わしい症状がある場合には、すぐに病院に行くのではなく、まず保健所などに設置された「発熱相談センター」に電話をして、アドバイスをうけてください。

病院周辺の地域では、潮来保健所(電話：0299-66-2114)が窓口になります。また、地域の保健センターでも、新型インフルエンザについての問い合わせを行っております。



予防しましょう！

インフルエンザの予防対策は、

- ①うがい・手洗い
- ②バランスのとれた食事と睡眠
- ③適度な加湿と換気
- ④なるべく人ごみを避ける

そして自分のためにも周りの人のためにも、マスクをしましょう。



最近、小児科外来で流行っている感染症(4/26～5/20)

- 1. 溶連菌(ようれんきん)感染症 14人
- 2. みずぼうそう 7人
- 3. おたふくかぜ 5人
- 4. 咽頭結膜炎(アデノ) 1人

*溶連菌(ようれんきん)感染症の症状
溶連菌という細菌がのどに感染し、のどの痛み、38℃～39℃の高熱、おう吐、腹痛、頭痛を起こすことがあります。体や手足に発疹などが出はじめ、舌はイチゴのようにブツツになります。

*治療

のどの検査で溶連菌がいることがはっきりしたら、抗菌薬を10日～14日間飲みます。1日が2日で熱が下がり、のどの痛みも消えます。でも途中で薬をやめてしまうと再発します。薬をきちんと飲まないといウマチ熱や腎炎を起こすことがありますから、指示通りに最後まで飲むことが大切です。



このたび、月1回のお知らせとして「たんぽぽ通信」を発行することにしました。最近、流行っている感染症のお知らせや症状への対応などをご紹介し、当院の小児科外来とお子様・ご家族をつなぐことのできるお知らせにしたいと考えております。

第1号は、今、大きく報じられている「新型インフルエンザ」についてお知らせしました。新型インフルエンザの症状は、通常の季節性インフルエンザよりも症状が軽く軽症だと言われています。あわてず、まず症状をよく見て、疑わしいと思ったら保健所へ相談しましょう。

